

# 大阪大学図書館報

Vol.26 No.2 Oct. 1992 (平成4年) 通巻107号

## 目 次

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ○大学図書館における永遠性        | ○教官著作寄贈図書        |
| ○研究室等からの蔵書検索システムについて | ○会 議             |
| ○入館自動チェックシステムの導入     | ○日 誌             |
| ○相互貸借業務へのILLシステムの導入  | ○人 事             |
| ○附属図書館委員会委員名簿        | ○統計 (図書館資料の増加状況) |

## 大学図書館における永遠性

田 中 一 朗

筆者は若い頃は大変よく図書館のお世話になった。特に学科の図書室には毎日のように出入りしたものである。しかし近年さすがにその時間がなくなり、時折文献を取りよせてもらう位の利用になってしまった。現在吹田分館長を拝命しており、久しぶりに図書館と再び密接にかかわるようになってきているが、昔とは立場が異なり、利用者というのではなく内部からのかかわりである。しかしいづれにしても大学図書館を色々な角度から見ることになり、あらためて感じるのには、時代の進展に伴う図書館の変化である。

図書館の役割は図書、文献を通じて大学の教育・研究に資することであり、具体的には図書を収集、整理、保管して教職員、学生の閲覧利用に供するというものである。この役割と機能は、紙と印刷の発明により図書が今日の形態になって以来基本的にはほとんど変わらぬまま今日に至っている。しかし近年コンピュータ時代の到来を迎え、その抜群の事務処理能力は図書館の伝統的業務に大きな影響を与え、多くのプロセスを一変させようとしている。また、図書、印刷物以外の知的媒体も続々登場し、長年連綿と続いた図書文明に加えて新しいニューメディア文明とでも称すべき状況が出現し、いわゆる情報化時代に突入しているのが現状である。そのため、図書館は従来の役割に加えて各種知的情報の提供場所、伝達・発進基地になってきた。図書館、Library、Bibliothek 等どここの国でも図書館を表す語は図書の館、本の箱等が語源になっているようであるが、今はそれから飛躍して遙かに広汎な役割と機能を要求されるに至った訳である。一旦その新機能を受持つに至った以上、またその機能が余りにも魅力的かつ有力であるため、その方向に向けての図書館の整備が現在猛烈な勢いで進行しつつあることは諸君ご高承の通りである。

もっとも、このような新機能と従来からある機能の両方を満足させるためには、具体的に

は莫大な予算と人、スペースが必要になる。しかし、合理化、省資源、省エネの社会的背景とも相まって、現実にはこれらは理想からは全く程遠い状況であることは何とも残念なことである。今後共、学内の我々をはじめ、各大学、関係省庁等一体となって図書館の近代像確立のため努力しなければならない。

さて、それにつけても思うのは図書館のこのような役割、機能の新展開に目を奪われて、何世紀も前の大学出現以来当然のものとして存在してきた大学図書館の本質的意義を忘れてはならないということである。図書館は単なる図書の保管倉庫でないことはいうまでもないことである。図書館は人類の知的活動の足跡を保管し、それをひもとくことにより文化の歴史をたどり得る所であり、また、先人の業績を保存し、その努力に敬意を払いつつ、新しい想を練る場所である。新しい機能の附加は図書館の目的からみれば誠に結構なことであり、大いに充実させるべきであるが、コンピュータの並んだ単なる情報検索センターというだけでは困るのであって、そこで思惟を重ね、学問の神髄に接することができる場所でないといけないと思う。

昔から図書館は大学の象徴であるといわれている。これは大学並びに図書館の理念と役割を考えればけだし当然であり、またそうなるべきであろう。どこの国でも大学図書館は建物も象徴にふさわしいものが多く、また役割上大学のキャンパス中心付近に位置する例が多い。建物の前に立つだけで身のひきまらるのをおぼえるのが図書館であり、更に一步入ればしわぶき一つせぬ雰囲気の世界に没入できるというのが図書館であろう。大学図書館は今後時代の進展とともに更に多くの役割、機能が与えられ、外観も含め、変遷を重ねていくと思われるが、尊厳にして深奥な学問の宿る所であり、時を忘れる思索によってそれに触れる所であることは時代を超えて不変である。大学図書館はかくして永遠に大学の象徴であり続ける。阪大の図書館も、分館も含め、すべてかくあれかしと思い、またそのようにしていきたいものである。

(たなか いちろう 吹田分館長 工学部船舶海洋工学科教授)

## 研究室等からの蔵書検索システムについて

### 1. はじめに

前号でもご紹介したように、本年（平成4年）図書館業務用電子計算機システムの更新が行なわれ、4月から本稼働しています。その内、旧システム時代からサービスを行っている、研究室などからの蔵書検索システム（無手順検索システム）は検索手順など利用方法が従来と変わっています。そこで、まだ利用されていない方のためにシステムの概要をご紹介します。

### 2. 無手順検索システムとは？

このシステムは、学内の研究室や図書室などにあるパソコンなどの端末から、電話回線を利用して本学の総合目録を検索するシステムです。電話回線は、内線と外線が利用できます。このシステムを利用することにより、図書館に向かなくても資料の所在を知ることができるほか、端末として使用するパソコンなどの機能を用いて、検索結果を手もとのプリンタに出力したり、フロッピディスクへの出力・編集をおこなうこともできます。

### 3. 検索可能な範囲と特徴は？

①大阪大学に所蔵する図書、雑誌の目録・所在情報などの検索ができます。ただし、図書については、学術情報センター・オンライン目録システムを利用して入力された図書に

限ります。

- ②図書、雑誌、和書、洋書の区別なく検索できます。図書のみ、雑誌のみの検索も可能です。
- ③書名、著者名、分類などの項目を意識せずに検索することができます。
- ④資料の貸出状況がオンラインで反映されています。
- ⑤雑誌の最新受入状況が把握できます。

#### 4. 利用に必要な機器は？

このシステムを利用する際に必要な機器は下記のとおりです。

- ①パソコン等の端末……検索システムの端末として利用します。通信機能付きのワープロでも利用可能です。
- ②モデム……………全二重型モデム（同時に送受信ができる方式）。モデムのかわりに音響カプラも使用できます。通信速度は2400bps/1200bps/300bpsが利用可能。また、MNPモデム（クラス5以下）も利用できます。
- ③RS232Cケーブル……端末とモデムを接続します。通常モデムに付属しています。
- ④電話機（電話回線）…構内回線（内線）または公衆回線（外線）。通常使用している電話機をモデムや音響カプラにつないで使用できます。
- ⑤プリンタ……………検索の経過や結果をプリントする場合に必要。
- ⑥通信ソフト……………パソコンを端末として利用する際に、パソコンと図書館のホストコンピュータとの間でデータのやりとりをするためのソフト。

#### 5. 利用時間は？

サービス利用できる時間は下記の通りです。

月・火・水・金	9時30分～20時30分
木	9時30分～13時
土・日	休止

#### 6. 利用方法は？

利用を希望される方のために、使用手引書が用意されていますので、下記までお申し込み下さい。最寄りの図書館・室にご連絡いただいても結構です。また、不明な点お気づきの点などがありましたら、お知らせ下さい。

附属図書館システム管理掛（生命科学分館内）  
内線 3830（医学部地区）  
外線 06-875-7503

### 入館自動チェックシステムの導入

附属図書館では、平成4年度より入館自動チェックシステム（自動入館装置、以下「入館システム」という。）を導入し、生命科学分館では6月15日(月)、吹田分館では7月20日(月)、本館では、8月4日(火)から同システムの運用を開始しました。

この入館システムは、OCR（光学文字読取）方式で、附属図書館利用者票（以下「利用者票」という。）を入館用ゲート脇のカードリーダポストの利用者票挿入口に差し込むことにより、同装置がその附属図書館利用資格を自動的に判読し、適正であればゲートのロック

が解除されるものです。利用者は、利用者票を抜き取り、バーを押し開いて入館してください。このことにより、利用資格のない者の無断入館並びに学外者の無許可入館を防ぎ、且つ入館状況を的確に把握できることになりました。利用者票は、全学の教職員及び学生並びに本学名誉教授に交付しますので、附属図書館に申請してください。

また、入館システムは、ブックディテクションシステム（無断図書持出防止装置）とも連動しています。ブックディテクションシステムは、利用者が貸出し手続きを経ずに館外へ図書を持ち出すことを防ぐ装置で、貸出し手続きをしていない図書を持って退館用ゲートを通過するとブザーが鳴り、ゲートがロックされます。ただ、同装置が精巧なため誤作動も生じる。また、図書の持ち出しが不注意による場合もあるので、図書館員もその取扱いについては細心の注意を払っています。もし、ブザーが鳴った場合は、館員の指示に従ってください。

なお、学外者は、初めに閲覧カウンターで所定の手続きを済ませ、館員の指示に従って入館してください。

附属図書館では、入館システムとブックディテクションシステムとを運用することにより、①利用資格のない者の開架図書閲覧室等への入室防止—本館では、高校生・大学受験生等の入館により本学学生の利用に支障をきたすとの多くの苦情が寄せられていた—、②利用者が自由に書架の図書を閲覧できる開架制のもとでの図書の無断持出防止、を図ることが可能となりました。

「利用者へのサービス」と「図書館員のスムーズな事務処理」とを両立させるためには、——例えば、本館での、年間入館者数約58万人、サービス対象者数約1万人、年間図書貸出冊数約11万冊等にのぼる状況のもと——機械の導入以外には難しいと考えられます。

正面玄関に入って直ぐ目に入ってきます仰々しいゲートの列についても、利用者の皆さんには以上の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

## 相互貸借業務へのILLシステムの導入

今日、ひとつの図書館で利用者の方々の文献や図書の利用の要求をすべて満たすことは困難になっています。もしそれらがその図書館に所蔵されていない場合、図書館はそれらの文献を所蔵している他の図書館に依頼してその文献のコピーを取り寄せたり（文献複写）、あるいは図書を借用したり（現物貸借）といったサービスをおこなっています。もちろん、こちらから依頼するだけでなく、逆に他の図書館からの依頼に応じて文献のコピーを提供したり、図書を貸し出すこともあります。これらのサービスのことを相互貸借業務と呼びます。

従来この相互貸借業務では、複写・貸借の依頼書を郵送（一部FAXで送信）することによって各図書館への依頼が行われてきましたが、平成4年4月よりこの業務のうち、所蔵調査及び通信・連絡に係わる部分をオンライン化する学術情報センターのILL(Inter-library Loan: 図書館間相互貸借)システムがスタートしました。このシステムでは、従来の依頼書送付の代わりに学術情報センターを通して各図書館へオンラインで依頼することができます。また、依頼した図書館から欠号等で謝絶され他の図書館に再依頼する場合にも、これまでは日数を要していましたが、このシステムでは自動的に他の図書館へ再依頼してくれる機能があります。したがって、これまでに比べ利用者の方々が申し込まれてからお手元に文献が届くまでの期間の短縮化が図られます。これら以外にも、学術情報センターの総合目録データベースでの所蔵館確認から依頼までの一連の業務をオンラインで連続してできることや、こちらからの依頼を受付けた図書館側での処理状況のオンラインでの確認といったような図書館業務の効率化となるメリットもあります。但し、このシステムは文献の電子的な提供という機能までは含んでいませんので、文献は今まで通り郵送されてきます。

さらに、平成5年4月より NACSIS-IR（学術情報センターの情報検索システム）からの他館への複写・貸借の申し込みデータの I L L システムへの転送が可能になる予定です。これによって研究者の方々は、検索した必要な文献の申し込みを図書館まで足を運ぶことなく研究室の端末から直接行うことが可能になります。

現在このシステムへの実際の参加館は9月末現在、大学図書館を中心に135機関（240館室）です。これらは、学術情報センターの総合目録データベースの構築に参加している機関とも言えます。未参加館とは従来通り郵送でのやり取りになりますので、参加館が今後さらに増加していくことが望まれます。

ちなみに、附属図書館（本館）における本年度9月末までの他館からの相互貸借依頼の受付件数のうち、I L L システムによるものの割合は、文献複写60%、現物貸借54%、また、他館への依頼件数での割合は、文献複写71%、現物貸借12%です。

図書館では、この I L L システムのサービスを利用することにより、利用者の方々への必要な文献の提供のより一層の迅速化に努力していきたいと考えております。

#### 図書館委員会委員名簿（平成4年10月1日現在）

部 局 名	氏 名	任 期
図 書 館 長	越田 豊	2. 4. 1 ~ 5. 3.31
生命科学分館長	鈴木不二男	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
吹田分館長	田中 一朗	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
文 学 部	高橋 正	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	肥塚 隆	4. 3. 1 ~ 6. 2.28
人 間 科 学 部	菊地 城司	4. 9.29 ~ 6. 9.28
	奥 雅博	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
法 学 部	田中 茂樹	62. 2.20 ~ 5. 2.19
	渡邊 惺之	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
経 済 学 部	本間 正明	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	竹岡 敬温	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
理 学 部	海崎 純男	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	長島 順清	3. 4. 1 ~ 6. 3.31
医 学 部	橋本 一成	62. 8.26 ~ 5. 3.31
	遠山 正彌	62. 4. 1 ~ 5. 3.31
医学部附属病院	岡田伸太郎	2. 2.17 ~ 6. 2.16
	吉矢 生人	元. 4. 1 ~ 5. 3.31
歯 学 部	和田 健	2. 2. 1 ~ 6. 1.31
薬 学 部	三浦 喜温	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	西原 力	63.12.20 ~ 6. 3.31
工 学 部	中島 信一	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
基礎工学部	井口 征士	3. 5. 1 ~ 5. 4.30
	石井 恵一	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
教 養 部	堀井 敏夫	元. 4. 1 ~ 5. 3.31
	大野 健	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
言 語 文 化 部	津田 葵	3. 8.21 ~ 5. 8.20
	岡野 輝男	4. 4. 2 ~ 6. 4. 1

言語文化研究科	赤井 慧爾	3.11. 1 ~ 5.10.31
健康体育 部	白石 純三	62. 4.20 ~ 5. 4.19
	笠井 健	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
微生物病研究所	松代 愛三	2. 4. 1 ~ 5. 3.31
	西宗 義武	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
産業科学研究所	植田 育男	3. 6. 1 ~ 5. 5.31
	岡田 東一	4. 6. 1 ~ 6. 5.31
蛋白質研究所	下西 康嗣	62. 4. 1 ~ 5. 3.31
	浅野 朗	元. 4. 1 ~ 5. 3.31
社会経済研究所	久我 清	元. 4. 1 ~ 5. 3.31
	森口 親司	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
溶接工学研究所	堀川 浩甫	3.12.16 ~ 5.12.15
	牛尾 誠夫	4. 6.16 ~ 6. 6.15
事務局 長 (オブザーバー)	糟谷 正彦	2. 7. 1 ~
医療技術短期大学部	東 雍	3. 4. 1 ~
	中西 康夫	4. 4. 1 ~

附属図書館豊中地区運営委員会委員名簿 (平成4年10月1日現在)

委員長 (文学部)	高橋 正	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
文学 部	肥塚 隆	4. 3. 1 ~ 6. 2.28
人間科学 部	奥 雅博	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
	菊地 城司	4. 9.29 ~ 6. 9.28
法 学 部	田中 茂樹	62. 2.20 ~ 5. 2.19
	渡邊 惺之	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
経 済 学 部	本間 正明	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	竹岡 敬温	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
理 学 部	海崎 純男	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	長島 順清	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
基礎工学 部	井口 征士	3. 5. 1 ~ 5. 4.30
	石井 恵一	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
教 養 部	堀井 敏夫	元. 4. 1 ~ 5. 3.31
	大野 健	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
言語文化 部	津田 葵	3. 8.21 ~ 5. 8.20
	岡野 輝男	4. 4. 2 ~ 6. 4. 1
言語文化研究科	赤井 慧爾	3.11. 1 ~ 5.10.31
健康体育 部	白石 純三	62. 4.20 ~ 5. 4.19
	笠井 健	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
社会経済研究所	久我 清	2. 4. 1 ~ 6. 3.31
	森口 親司	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
(オブザーバー)		
医療技術短期大学部	東 雍	3. 4. 1 ~
	中西 康夫	3. 4. 1 ~

附属図書館生命科学分館運営委員会委員名簿（平成4年10月1日現在）

分館長	鈴木不二男	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
医学部	岡本 光弘	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	津本 忠治	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
医学部附属病院	吉矢 生人	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	岡田伸太郎	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
歯学部	岡田 宏	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	和田 健	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
薬学部	西原 力	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	土井 健史	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
微生物病研究所	松代 愛三	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	西宗 義武	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
蛋白質研究所	浅野 朗	4. 4. 1 ~ 5. 3.31
	相本 三郎	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
細胞生体工学センター	谷口 維紹	4. 4. 1 ~ 6. 3.31

附属図書館吹田地区運営委員会委員名簿（平成4年10月1日現在）

分館長	田中 一朗	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
工学部	中島 信一	3. 4. 1 ~ 5. 3.31
	中村喜代次	4. 5. 1 ~ 6. 4.30
産業科学研究所	植田 育男	3. 6. 1 ~ 5. 5.31
	岡田 東一	4. 6. 1 ~ 6. 5.31
溶接工学研究所	堀川 浩甫	3.12.16 ~ 5.12.15
	牛尾 誠夫	4. 6.16 ~ 6. 6.15
レーザー核融合研究センター	北川 米喜	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
核物理研究センター	山崎 魏	4. 4. 1 ~ 6. 3.31
大型計算機センター	熊谷 貞俊	4. 4. 1 ~ 6. 3.31

教官著作寄贈図書

—生命科学分館—

作田 守（歯・教授）

Biological mechanisms of tooth movement and craniofacial adaptation.

(Proceedings of the International Conference held at the Great Southern Hotel Columbus, Ohio, May 8-11. 1991) Zeev Davidovitch (ed.)

Contributors, Mamoru Saluda, et al. (The Ohio State University, College of Dintistry 1992)

作田 守（歯・教授）

歯学生のための歯科矯正学

作田 守他編

（医歯薬出版 1992）

谷口 直之（医・教授）

The post-translational modification of proteins: roles in molecular and cellular biology

S. Tsudo, N. Taniguchi, and N. Katunuma (eds.)

(Japan Scientific Societies Press 1992)

中川 八郎 (蛋白研・教授)

Central regulation of energy metabolism  
with special reference to circadian  
rhythm

K. Nagai, and H. Nakagawa  
(CRC Press 1992)

—吹田分館—

福本 昉士 (工学部・教授)

Stability and ductility of steel structure  
under cyclic loadig

Y.Fukumoto, and G. Lee (ed.)  
(CRC Press 1992)

足立 吟也 (工・教授)

Rare earths : materials of the 21st  
century

G.Adachi, and H.Nagai (ed.)  
(The Rare Earth Society of Japan  
1992)

吉野 勝美 (工・教授)

分子とエレクトロニクス  
—導電性高分子とその機能応用—  
吉野 勝美著

(産業図書 1992)

吉野 勝美 (工・教授)

自然・人間・放言備忘録  
吉野 勝美著

(信山社サイテック 1992)

吉野 勝美 (工・教授)

高速液晶技術  
—強誘電性液晶材料とデバイス—  
吉野 勝美編著

(シーエムシー 1986)

吉野 勝美 (工・教授)

導電性高分子の基礎と応用  
—合成・物性・評価・応用技術—  
吉野 勝美編著

(アイピーシー 1988)

馬場 研介 (工・助手)

Theoretical study on dynamic interac-  
tion problems between structures and its  
surrounding ground for seismic disturb-  
ances

馬場 研介著

(1992)

宮脇 一男 (元工・教授)

科学技術のインドネシア語  
宮脇 一男著

(紀伊国屋 1992)

田中 一期 (工・教授)

The Second Osaka International  
Colloquium on Viscous Fluid Dynamics  
in Ship and Ocean Technology. Sep.  
27-30, 1991 Osaka, Japan

Organizing Committee Chairman:  
Prof. I. Tanaka

(Pub. by. The Organizing Committee  
of The Second Osaka International  
Colloquium on Viscous Fluid  
Dynamics in Ship and Ocean  
Technology 1992)

—基礎工学部図書室—

井口 征士 (基礎工・教授)

三次元画像計測

井口 征士、佐藤 宏介共著

(昭晃堂 1990)

末田 正志 (基礎工・教授)

光エレクトロニクス

末田 正著

(昭晃堂 1990)

末田 正志 (基礎工・教授)

超高速光エレクトロニクス

末田 正、神谷 武志共編

(培風館 1991)



■■■■■■ 会 議 ■■■■■■

分館長会議

4. 7. 6 (月) 15:00~16:12 (生命科学分館会議室)

1. 平成4年度予算配分案について協議した。
2. 次期附属図書館長候補者の選考日程案について協議した。
3. 附属図書館に自己評価委員会を設置することについて協議し、「附属図書館自己評価委員会設置要項」のとおり委員会を設置することを決定した。

図書委員会

4. 7. 13 (月) 15:00~16:25 (本館会議室)

1. 平成4年度予算配分案について審議し、原案どおり承認した。
2. 次期附属図書館長候補者の選考日程案について協議し、原案どおり承認した。
3. 大型補正予算編成の動きに関連して高額図書の要求を行うことについて協議した。

豊中地区運営委員会

4. 7. 24 (水) 13:30~14:50 (本館会議室)

1. 7月13日開催の図書館委員会で協議された高額図書の要求に関して、豊中地区としての要求リストの取りまとめ方法等について協議した。
2. 豊中地区における選書のシステムについて協議し、豊中地区運営委員会に図書選定小委員会を設置することを決定し、併せて「小委員会設置要項」を決定した。
3. 次年度以降の特別図書購入費の各部局への割当方法について協議・決定した。

生命科学分館運営委員会

4. 7. 21 (火) 10:00~11:40 (生命科学分館会議室)

1. 平成4年度生命科学分館製本費予算配分について。原案どおり了承された。
2. 平成4年生命科学分館資料費部局分担金について。分担比率および分担額について説明し、原案どおり了承された。

吹田地区運営委員会

4. 7. 17 (金) 15:00~16:30 (吹田分館会議室)

1. 平成4年度学生用図書責の執行について、原案どおり承認された。
2. 吹田分館備え付け継続図書の見直しについて、討議された。
3. 吹田分館利用改正(案)について、協議の結果原案通り承認された。

吹田地区運営委員会

4. 10. 5 (月) 15:30~16:40 (吹田分館会議室)

1. 平成4年度学生用図書選定について、原案通り承認された。
2. 吹田分館備え付け外国雑誌の見直しについて、協議の結果承認された。
3. その他。工学部図書選定小委員会内規改正(案)、外国雑誌検討小委員会内規改正(案)について討議された。

■■■■■■ 日 誌 ■■■■■■

- |             |  |            |
|-------------|--|------------|
| 4. 6. 15    | 入退館管理システム稼働                              | (生命科学分館)   |
| 4. 6. 25~26 | 国立大学図書館協議会総会                             | (帯広市)      |
| 4. 7. 3     | 国公立大学図書館協力委員会                            | (奈良市)      |
| 4. 7. 6     | 分館長会議                                    | (生命科学分館)   |
| 4. 7. 6     | 日本医学図書館協会理事会                             | (東京大学)     |
| 4. 7. 13    | 図書館委員会                                   | (本館)       |
| 4. 7. 13    | 外国雑誌センター館会議                              | (文部省)      |
| 4. 7. 13~30 | 夏季休業中の夜間開館の試行                            | (本館)       |
| 4. 7. 20    | 入退館管理システム稼働                              | (吹田分館)     |
| 4. 7. 21    | 生命科学分館運営委員会                              | (生命科学分館)   |
| 4. 7. 23    | 大学図書館国際連絡委員会総会・第5回日米大学<br>図書館会議組織委員会合同会議 | (東京大学)     |
| 4. 7. 24    | 豊中地区運営委員会                                | (本館)       |
| 4. 7. 24    | 学術情報センター総合目録小委員会                         | (学術情報センター) |
| 4. 7. 28    | 教養図書顧問教官との懇談会                            | (本館)       |
| 4. 8. 4     | 入退館管理システム稼働                              | (本館)       |
| 4. 8. 24~28 | 目録システム講習会(地域講習会)                         | (本館)       |
| 4. 8. 25    | 日米ワイデイセミナー実行委員会                          | (京都大学)     |
| 4. 9. 1~4   | 目録システム講習会(地域講習会)                         | (本館)       |
| 4. 9. 7     | 消防訓練                                     | (本館)       |
| 4. 9. 21    | 学術情報センター総合目録小委員会                         | (学術情報センター) |
| 4. 9. 25    | 国立大学図書館協議会自己評価基準検討委員会                    | (本館)       |

■■■■■ 人 事 ■■■■■

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
		(配置換)	
蛋白質研究所	家住 久子	情報管理課図書受入掛	4. 10. 1
情報管理課図書受入掛	高野 恵子	医学情報課参考調査掛	〃
		(所属換)	
医学情報課参考調査掛	今枝 文子	医学情報課図書受入掛	4. 10. 1
		(採用)	
	山口ひろみ	事務補佐員 情報サービス課資料運用掛	4. 7. 1
	小澤 睦子	〃 医学情報課図書受入掛	4. 9. 1
	折原 秀夫	〃 吹田分館資料運用掛	4. 9. 11
		(転入)	
兵庫教育大学教務部図書課情報サービス係長	山崎 隆史	情報管理課洋書目録情報掛長	4. 10. 1
		(転出)	
情報管理課システム管理掛	井関 泰夫	兵庫教育大学教務部図書課情報サービス係長	4. 10. 1
医学情報課図書受入掛	星屋 真	奈良先端技術大学院大学学術情報課	〃
		(退職)	
事務補佐員 吹田分館資料運用掛	石田 朗		4. 7. 10
〃 医学情報課図書受入掛	森 彰子		4. 7. 31
〃 情報サービス課参考調査掛	服部 哲也		4. 9. 30
〃 医学情報課資料運用掛	中嶋 都		〃
〃 吹田分館目録情報掛	木本 陽子		〃

お詫びと訂正のお願い

前号 { vol.26, No.1 (通巻 106 号) } 高橋 正 (「地図室」と 1968 年のパリ) に次の誤植がありました。お詫びして訂正致します。

P. 3 上から 22 行目 I. G. U. → I. G. N.

P. 3 下から 10 行目 鉱物学地質帳 → 鉱物学地図帳

1991年度 図書館資料の増加状況

区分	項目	蔵書数(和・洋書別)		計 (A+B+C+D)	蔵書数(備付別)		年間図書受入数			雑誌受入種類数				
		(A)和	(B)洋		A+B (C+D)	C 図書館 (室)に 備付	D 部局(資料 室・講座) に備付	購入	寄贈	製本受入	その他 (1)	計	購入	寄贈
本館	図書館(本館)	213,488	55,562	269,050	239,923	29,127	6,647	964	1,344	-544	8,411	206	628	834
	文学部	163,761	148,164	311,925	99,613	212,312	5,096	2,728	631	47	8,502	583	1,176	1,759
	法学部	79,571	98,739	178,310	37,946	140,364	3,468	159	461	0	4,088	480	434	914
	経済学部	91,907	81,097	173,004	113,531	59,473	1,913	99	1,694	-1	3,705	629	581	1,210
	教育学部	130,298	92,126	222,424	76,944	145,480	3,356	80	1,069	5	4,510	502	60	562
	言語文化学部	19,826	46,852	66,678	2,027	64,651	6,318	209	415	0	6,942	385	55	440
	健康体育学部	6,229	1,057	7,286	0	7,286	148	0	53	0	201	87	13	100
	社会経済研究所	16,897	16,008	32,905	0	32,905	326	33	369	0	728	262	87	349
	小計	721,977	539,605	1,261,582	569,984	691,598	27,272	4,272	6,036	-493	37,087	3,134	3,034	6,168
	人間科学部	50,617	96,473	147,090	53,219	93,871	4,781	187	803	498	6,269	897	602	1,498
関係	理学部	22,792	125,219	148,011	43,353	104,658	947	526	1,760	24	3,257	440	326	766
	基礎工学部	35,901	86,330	122,231	46,558	75,673	1,990	12	1,039	21	3,062	916	230	1,146
	小計	109,310	308,022	417,332	143,130	274,202	7,718	725	3,602	543	12,588	2,253	1,158	3,410
中之島分館関係	合計	831,287	847,627	1,678,914	713,114	965,800	34,990	4,997	9,638	50	49,675	5,387	4,192	9,578
	図書館(分館)	100,654	216,510	317,164			2,532	186	9,672	0	12,390	6,362	1,269	7,631
吹田分館関係	歯学分室	*	*	*			*	*	*	*	*	*	*	*
	微生物病研究所図書室	5,868	27,368	33,236			103	1	740	0	844	169	136	305
	蛋白質研究所図書室	1,583	14,920	16,503			95	18	503	0	616	86	179	265
	合計	108,105	258,798	366,903			2,730	205	10,915	0	13,850	6,617	1,584	8,201
	図書館(分館)	66,569	42,479	109,048			1,138	196	653	151	2,138	315	817	1,132
	工学部	87,002	151,799	238,801			1,866	61	2,557	-222	4,262	1,606	59	1,665
	溶接工学研究所	1,073	2,629	3,702			56	5	133		194	69	2	71
	レーザ核融合研究センター	1,119	2,825	3,944			51	5	267		323	37	0	37
	核物理研究センター	2,810	7,289	10,099			198	225			423	59	2	61
	大型計算機センター	1,775	3,456	5,231			70		10		80	47	1	48
関係	産業科学研究所図書室	11,258	36,181	47,439			321	10	888	29	1,248	327	86	413
	合計	171,632	246,661	418,293			3,700	502	4,508	-42	8,668	2,460	967	3,427
	薬学部分館	13,923	21,853	35,776	33,505	2,271	132	48	510	3	693	101	179	280
総合計	1,124,947	1,374,936	2,499,886			41,552	5,762	25,571	11	72,986	14,565	6,922	21,486	

\*中之島分館を含む (1) 管理費・共用費等